



University of the Ryukyus Library Bulletin Vol.31 No.1(No.117) Jan. 1998

## OECD資料への招待

法文学部教授 我部政明

琉球大学附属図書館の2階新館（正面玄関から入った左奥）に国際資料コーナーがある。そこには、国連資料、EU (European Union) 資料などと並んでOECD資料が置かれている。単に配架されているのではない。最新の印刷物までもが、次々と並べられている。つまり、琉球大学にいてこれら国際機関についての情報へ接することができ、また過去まで遡ることができるようになっている。インター

ネット上にて情報のやりとりが容易になったとはいえ、大学図書館の場においてビジュアルでしかも手で触れられるのはありがたい。

OECD (Organization for Economic Cooperation and Development, 経済協力開発機構) とは何か。国際経済、国際関係や発展途上国への援助を勉強している人にはなじみのある国際機関である。1947年6月、アメリカが第二次大戦後のヨーロッパの復興のため

目次	
OECD資料への招待	1
CD-ROM情報検索システムの使用法(5)	4
ライブラリー・ワークショップ・	
プログラム'98.1～'98.3	6
1998年度新規・中止購読雑誌	8
本学教官著作寄贈図書案内	11
本学紀要類紹介：－シリーズ 9－	12
図書館内にパソコンが増設されます	12
「宮良殿内文庫貴重資料展」盛況のうち	
に終わる	13
図書館ボランティアに感謝状贈呈	14
遡及入力を実施中	14
琉球大学附属図書館のあゆみ	15
お知らせ	19
沖縄関係資料新着案内	20
図書館事情	23
アカデミー賞受賞作品映写会	24
医学部分館だより	24

附属図書館のホームページ (<http://lib1.lib.u-ryukyu.ac.jp/>) もご覧下さい。

に援助することを発表したことは、その後、マーシャル・プラン（演説したマーシャル国務長官の名にちなんで）とよばれた。また、アメリカの援助対象地域をヨーロッパ全体ではなく、社会主義政権を排除していたことから、ヨーロッパにおける冷戦の始まりとなった。

マーシャル・プランに基づいて設立されたのが、OECE（Organization for European Economic Co-operation, 欧州経済協力機構）である。その後12年にわたり、OECEは西欧経済の復興と発展に多大の貢献をなし、また域内の貿易自由化促進、経済協力を進めた。1950年には、西側のヨーロッパ諸国だけのOECEにアメリカとカナダが準加盟国となり、それらの関係が緊密化した。1960年12月に、OECE加盟18カ国に米、加の20カ国閣僚と欧州三共同体の代表が会合して、所期の目的を達成したOECEを改組して、世界的な視野に立って国際経済全般に関し協議することを意図したOECD条約に署名し、翌年9月に現在のOECDが発足した。本部をパリに置いた。OECDの最高機関となっているのは、全加盟国代表から構成される閣僚級の会議（閣僚理事会、年一度開催）と常駐代表級の会議（一から二週に一度開催）の二つである。その後、1964年に日本、1966年にフィンランド、1971年にオーストラリア、1973年にニュージーランドなどの西側の先進工業国すべてが加盟し、現在ではチェコ、メキシコ、韓国、ポーランド、ハンガリー、スイスなどが加わり、29カ国となっている。

OECDは、次の三つを目的としている。一つが、財政金融上の安定を維持しつつ、できるだけ高度の経済成長を持続し、雇用の増大や生活水準の向上をはかり、世界経済の発展に貢献すること。二つが、経済発展の途上にある加盟国および非加盟国の健全な経済の拡大に貢献すること。三つが、国際的義務に従い、世界貿易の多角的かつ無差別的な拡大に貢献すること。

その他に、先進工業国に共通する悩みであるインフレ、構造不況、環境、資源エネルギー問題、社会福祉の分野での活動を行っている。さらに、1974年11月には、OECDのなかに

国際エネルギー機関（IEA）を設置して、エネルギー節約、代替エネルギー開発促進などの政策推進を行っている。

それぞれの目的に対応する三つの委員会が設置されている。加盟国の経済政策を検討し、経済政策を理事会に提案、勧告する「経済政策委員会（Economic Policy Committee）」、発展途上国の開発援助の拡充とその効果の増大を目的とし、開発援助に関連するあらゆる問題を討議する「開発援助委員会（Development Aid Committee）」、国際貿易上の主要問題について意見交換をし、各国の通商政策の主たる変更について協議する「貿易委員会（Trade Committee）」などである。OECDは発展途上国から「先進国クラブ」と呼ばれ、その中でも援助を行っている国（OECD加盟国中21カ国）で構成される開発援助委員会（DAC）が、援助を受けてる側から「金持ちクラブ」と皮肉られることもある。

OECD資料に収録された個々の出版物には、すべてコード・ナンバーが付いている。このナンバーは、七桁（例えば30-97-04-3）から成る。最初の二桁は分野と発表源。次の二桁は発行年度、さらに次の二桁は同一年度の何回目の報告書か。最後が英・仏のうち使用言語を示している。最初の二桁の分類は、概ね次の通りとなっている。

- 一般（01番台）
- 経済問題（10番台）
- 財政・金融・租税・貿易（20番台）
- 統計（30番台）
- 開発（40番台）
- 農業・水産（50番台）
- エネルギー問題（60番台）
- 産業・地域政策・交通・運輸（70番台）
- 労働力・社会問題（80番台）
- 教育・科学技術・環境（90番台）

さて、こうした広範囲な活動を行っているOECDの出版物をどのようにして使うことができるのだろうか。それは、それぞれの研究の目的、方法によると言えるだろう。ここでは、このOECD資料から何を知ることができるのか、その例を紹介することとしたい。

まず、OECD加盟国の経済指標を1960年から見ることでできる『Historical Statistics, 1960-1995 (30-97-04-3)』(2B室所在)は、長期的な変化を知ることで重宝だ。各種データのOECD加盟国間の比較が容易となる。

また、援助の流れを見るとすれば、『Geographical Distribution of Financial Flows to Aid Recipients (43-97-02-3)』(2B室所在)は基本文献の基本である。援助受け取り国ごとに、二国間、多国間・国際機関の受け取り総額、借款(ローン)、贈与(グラント)などについての詳細な統計が記されている。ある特定の発展途上国への援助の流れ、あるいは二つ以上の発展途上国への援助の流れを比較するときには、不可欠なデータである。

次に、援助する側の国(開発援助委員会、DAC)ごとの援助の内容を記したのが、『Development Co-operation (43-97-01-1)』(2B室所在)である。ここで紹介されるデータは、たとえば日本の借款を実施している海外経済協力基金の『海外経済協力便覧』(333.8-KA-1997、2A室所在)にも引用され、開発援助委員会(DAC)諸国に関し、比較可能な信頼できる数字となっている。ここで紹介した上記の印刷物は、年一度、刊行され、最新のデータを入手することができる。

国際関係あるいは援助などについて、OECD資料以外に知っておいて便利な資料を紹介しておこう。世界各国を比較できる統計を見るには、世界銀行の『世界開発報告』(年1回刊行、333.8/SE/1996、2A室所在)が便利だ。経済指標だけでなく、教育・文化の指標も掲載されている。

財政・経済統計ならば、IMF(International Monetary Found)の『International Financial Statistics』(毎月刊行、3G室所在)は重宝だ。

同じくIMFの『Direction of Trade Statistics Yearbook』(年一回刊行、678.9/DI、3C室所在)はほとんどの二国間貿易の組み合わせを知ることで基本的データを完備している。

国連の刊行する『アジア太平洋統計年鑑：

Statistical yearbook for Asia and the Pacific』(年一回刊行、330.59-KO、国連資料、2A室所在)は、アジア太平洋地域の各国比較の統計を掲載している。いずれも信頼度の高いデータであり、いわゆる第一次資料である。ここで紹介した各種の出版物は、英語(フランス語と併記)で書かれている。

日本語で書かれた資料となると、もっとも手軽にページをめくれるものとして共同通信社が毎年刊行している『世界年鑑：World yearbook』(059.1-SE-1997、2A室所在)をあげることができよう。

その他、研究テーマによって、多くの参考文献にあたる必要があるはずだ。それは、テーマを追求するそれぞれの努力に負うしかないだろう。

ともあれ第一次資料であり、信頼度が高く、そして最新版までそろっているOECD資料を使わない手はない。特に大学院で国際経済、援助を中心とした国際関係、経済動向の国際比較を行うとすれば、OECD資料を使わずして論文をかけるはずはない。大学院生だけでなく、学部学生であっても質の高い卒論をめざすのであれば、OECD資料に限らず第一次資料に可能なかぎりあたることをお勧めする。

1975年7月から本図書館はOECD協力資料館となり、プランケット・スタンディング・オーダー(定期刊行物も単行書を含めて継続購入)にて、OECD資料を入手している。

OECD資料を含む国際資料を継続して収集(国連資料、EU資料は寄贈、OECD資料は購入)してもらいたいと図書館へお願いしたい。一度は、予算削減によってOECD資料の継続購入を中止する計画が持ち上がった。厳しい予算はともあれ、何を優先すべきか、効率を高めるには何が必要か、検討を積み上げてほしいものだ。アジア太平洋地域に関する大学院の計画が進んでいるばかりでなく、琉球大学が個性として主張できる研究、教育に役立つ配慮を求めたい。とりわけ援助に関するデータとしてのOECD資料は、世界的研究の水準で引用されていることを忘れないでほしい。(がべ まさあき：国際関係論)

## CD-ROM 情報検索システムの使用方法 (5)

### *PsycLIT*・*Biological Abstracts/RRM*・*MEDLINE (SERLINE)*

附属図書館がネットワークを利用してサービスしているCD-ROM検索サービスに、平成9年5月より新たにPsycLITとBiological Abstracts/RRMが加わりました。検索の操作方法については本誌Vol.29 no.3(1996)に紹介されているMEDLINEやBiological Abstractsと同じ検索画面を利用して検索していくので、それを参考にしてください。今回は、PsycLITとBiological Abstracts/RRMの概略を紹介します。

また普段MEDLINEをお使いになっている方は、検索の始めにデータベースを選択するとき、データベースの並びの後ろのほうにSERLINEというものがあるのにお気づきだったでしょうか？これはMEDLINEと関係するものですが、それとは性格が異なるデータベースですので、その概略と使い方について紹介します。

#### I. PsycLIT

##### 1. 内容

アメリカ心理学会が刊行している、文献情報誌「Psychological Abstracts」のCD-ROM版。雑誌記事以外に、文献レビュー、調査記録、会議録、翻訳文献、各理論、パネル討論記録、心理療法の器具やテスト関係ニュース等も収録しています。また収録されている情報は「Thesaurus of Psychological Index Terms」という統制用語集により索引付けされています。雑誌論文は1974年以降、書籍の論文は1987年以降を収録対象としています。

##### 2. データ更新

データ更新は、4回/年

##### 3. 収録分野

心理学を中心に、精神医学、社会学、人類学、教育学、薬学、生理学、言語学等をカバーしています。

#### II. Biological Abstracts/RRM (BA/RRM)

##### 1. 内容

BA/RRMは、ライフサイエンス分野の雑誌論文以外の情報をカバーしています。

RRMとはReports、Reviews、Meetingsのことを意味し、雑誌論文を扱うBiological Abstractsと比べて、採録する資料の種類が異なります。収録は1989年以降の論文を対象としています。

##### 2. データ更新

更新頻度は、4回/年

#### III. MEDLINE (SERLINE)

##### 1. 内容

NLM (National Library of Medicine 米国立医学図書館) 所蔵の逐次刊行物の正式名

称及び略称を含む書誌データベース。

## 2. MEDLINEとの違い

MEDLINEで検索を行うと、あるテーマに関して書かれている情報を論文単位で情報を得ることができますが、SERLINEは論文を検索するためのものではなく、論文を掲載している刊行物の情報について調べることができます。例えば、MEDLINEを検索して得られた情報のうち、その論文の出典(収録雑誌名)は略称で表示されていますが(SOフィールド)、SERLINEを検索することにより、その略称から正式名称を検索することができます。

## 3. 利用例

① 収録雑誌の略称はわかるが、正式な名称を知りたい。

MEDLINEで検索した結果、SOフィールド(出典情報)の掲載雑誌名が"Ann-Clin-Biochem"だったが、これの正式な名称を知りたい。

→SERLINEのフィールドTA(MEDLINE Title Abbreviationフィールド)を利用する。条件入力フィールドにANN-CLIN-BIOCHEM IN TA(もしくはTA=ANN-CLIN-BIOCHEM)と入力します。正式名称がTIフィールドに表示され、その刊行物に関する他の詳細情報も得られます。

② MEDLINEに収録されている刊行物を知りたい。

→SERLINEのフィールドMI(MEDLINE収録刊行物)がYESであるものを検索すればよい。条件入力フィールドにYES IN MI(もしくはMI=YES)と入力します。現在収録されているものの他に、刊行中止、タイトルチェンジ、収録中止されたものも含まれます。

③ MEDLINEに抄録付きで収録されている刊行物を知りたい。

→SERLINEのフィールドIAがMED(MEDLINEを表すコード)であるものを検索します。条件入力フィールドにMED IN IA(もしくはIA=MED)と入力します。

④ 生化学分野の刊行物リストを作りたい。

→SERLINEのフィールドDE(刊行物データとして収録される時に付けられるキーワードが表示されるフィールド)がBiochemistryであるものを検索します。条件入力フィールドにBIOCHEMISTRY IN DE(もしくはDE=BIOCHEMISTRY)と入力します。

## 4. その他

SERLINEに含まれる他の情報として上記以外に、ISSN(国際標準逐次刊行物番号)や、その刊行物の出版者情報、刊行頻度等があり、それぞれをMEDLINEと同様AND検索等の検索式を組み立てることにより、必要な情報として整えることができます。

## 5. この機能を知っていて得することは…

附属図書館を通じて他の図書館にある文献の複写を依頼する時、申込用紙にはできるかぎり正確な情報を書いていただくことが、文献を早く入手するためのコツです。図書館では、申込用紙に記入されている情報が豊富で、かつ正確であれば、より早く先方の図書館に依頼することができるのです。ですから、MEDLINEやSERLINEをうまく利用して正確な情報を図書館にお伝えくださるよう、図書館からお願いいたします。

また、ときどき図書館のカウンターでは「ある特定分野の雑誌リストが欲しい」という相談を受けることがあります。今回ご紹介したSERLINEは、その希望を満たすことができると思われます。特に、Web-cal(全国の大学図書館や研究所の所蔵状況がわかるシステム。図書館のホームページから利用できます)と併用するとその利用の幅が広がると考えられますので、是非ご活用ください。(電子情報係)

# ライブラリー・ワークショップ・プログラム

‘98年1月～‘98年3月

内容の詳細・日程は図書館のホームページで再確認！

**参加申し込み**

附属図書館電子情報係（図書館本館3階 内線：千原8167、2207）  
資料やパソコンの用意があるため、参加申し込みを行ってください。

★ 図書館ツアー

日時：‘98年1月9日、2月13日、3月13日 11:00～12:00

場所：附属図書館本館（千原）2階 視聴覚室

内容：いつも同じ書架に行って資料を探しているあなた、本当に必要なものとめぐり会えていますか？他の図書館の資料は使えない、手続きが面倒とあきらめてしまっていないか？

このツアーは、あなたが必要な資料に効率よくアクセスできるよう、あなたの利用を待っている資料群を紹介し、また以外と簡単に他の図書館の資料も利用できますのでその方法もお教えします。

★ 図書館利用法

日時：‘98年1月30日、2月27日、3月27日 11:00～12:00

場所：附属図書館本館（千原）2階 視聴覚室

内容：情報を得るためのツールはコンピュータではありません。図書館のレファレンスコレクション（参考資料群）を利用すると、かなり古い過去にさかのぼって文献を検索したり、テーマの周辺領域を拾い読みすることができるのはプリントされた資料ならではの技です。その他、レファレンスコレクションに関する知識や利用法についてお教えします。

★ レポート・論文作成のための電子メディア活用講座（日程は次ページ参照）

時間：15:00～16:00

場所：附属図書館本館（千原）2階 目録検索コーナー  
医学部分館 1階 目録検索コーナー

内容：附属図書館がサービスしているOPAC（蔵書検索システム）や、論文単位で情報検索ができるCD-ROMデータベース、Web-catサービス（インターネットで日本各地の大学図書館等の所蔵情報がわかります）等の電子メディアを駆使して、効率よく情報を入手する方法をお教えします。

＝CD-ROM データベース＝（各データベース名の末尾は次ページ日程図中の省略名）

人文・社会系

- Art & Humanity Science Citation Index (CI)
- Social Science Citation Index (CI)
- ABI/Inform（経済・経営系、ABI）

学際領域、及び複数分野

- PsycLIT（心理学、ERL）
- 雑誌記事索引（全分野、Z）

- Current Contents（社会・自然・医学・技術系、CC）

自然・医学・技術系

- Science Citation Index (CI)
- MEDLINE(ERL)
- Biological Abstract (ERL)
- Biological Abstract/RRM(ERL)
- 医学中央雑誌（医中誌）

図書出版情報

- Global Books in Print(GBP)

★ 図書館における電子メディア利用のためのパソコン基礎講座（日程は下記参照）

時間：15:00～16:00

場所：附属図書館本館（千原）2階 目録検索コーナー

内容：最近、図書館ではコンピュータやパソコンを使った蔵書検索や、文献情報の検索ができる環境が整備されつつあり、またそれがごく普通のことになってきました。でも「機械は苦手」という方でも、この講座で図書館の電子メディアを利用する時の基礎知識を身につけることができます。また、この講座を受講すると、「レポート・論文作成のための電子メディア活用講座」を効果的に受講できます。

開催スケジュール

CD-ROMデータベースは略名になっていますので、「活用講座」の説明欄で確認してください。

活用講座:レポート・論文作成のための電子メディア活用講座

基礎講座:図書館における電子メディア活用のための基礎講座

1998年1月

月	火	水	木	金
1/5 初用始め 休館日	6 活用講座 OPAC/Web-cat 千原本館	7	8 活用講座 ERL 千原本館	9 活用講座 OPAC/Web-cat 千原本館
1/12 活用講座 ABI 千原本館	13 活用講座 CI自然・技術系 千原本館	14 活用講座 OPAC/Web-cat 千原本館	15 成人の日 休館日	16 活用講座 ERL/医中誌 医学部分館
1/19 活用講座 CI人文・社会系 千原本館	20 活用講座 GBP/OC 千原本館	21 基礎講座 千原本館	22 活用講座 OPAC/Web-cat 千原本館	23 活用講座 Z/OC 医学部分館
1/26 活用講座 OPAC/Web-cat 千原本館	27 活用講座 Z 千原本館	28	29 基礎講座 千原本館	30 活用講座 CI 医学部分館

1998年2月

月	火	水	木	金
2/2 活用講座 OPAC/Web-cat 千原本館	3 活用講座 GBP/CC 千原本館	4 活用講座 OPAC/Web-cat 千原本館	5 基礎講座 千原本館	6 活用講座 ERL 千原本館
2/9 基礎講座 千原本館	10 活用講座 ERL/医中誌 医学部分館	11 建国記念日 休館日	12 活用講座 OPAC/Web-cat 千原本館	13 活用講座 ABI 千原本館
2/16 活用講座 CI自然・技術系 千原本館	17 活用講座 CI人文・社会系 千原本館	18 活用講座 Z/CC 医学部分館	19	20 活用講座 OPAC/Web-cat 千原本館
2/23 活用講座 Z 千原本館	24 活用講座 OPAC/Web-cat 千原本館	25	26 活用講座 CI 医学部分館	27 基礎講座 千原本館

1998年3月

月	火	水	木	金
3/2 活用講座 ERL/医中誌 医学部分館	3 基礎講座 千原本館	4 活用講座 GBP/CC 千原本館	5 活用講座 OPAC/Web-cat 千原本館	6 活用講座 Z 千原本館
3/9 活用講座 ERL 千原本館	10 活用講座 Z/CC 医学部分館	11 基礎講座 千原本館	12 活用講座 ABI 千原本館	13 活用講座 OPAC/Web-cat 千原本館
1/16 活用講座 CI人文・社会系 千原本館	17 活用講座 OPAC/Web-cat 千原本館	18 活用講座 CI 医学部分館	19	20 基礎講座 千原本館
1/23	24	25 活用講座 OPAC/Web-cat 千原本館	26 活用講座 CI自然・技術系 千原本館	27 活用講座 OPAC/Web-cat 医学部分館

内容問い合わせ：図書館ツアー&図書館利用法 → 参考調査係（図書館本館 2F 内線 千原8168, 2221）  
活用講座&基礎講座 → 電子情報係（図書館本館 3F 内線 千原8167, 2207）

## 1998年新規購読外国雑誌

誌名	購入	学科
1 AMERICAN JOURNAL OF KIDNEY DISEASES	M	医学・泌尿器科学
2 ANNALS OF BOTANY	M	理学・海洋自然科学・生物系
3 BIOETHICS	Q	法文・人間行動専攻
4 BUSINESS ETHICS QUARTERLY : THE JOURNAL OF THE SOCIETY FOR BUSINESS ETHICS	Q	法文・人間行動専攻
5 COMBINATORICS, PROBABILITY & COMPUTING : CPC	Q	理学・数理科学科
6 COMMUNICATIONS IN ANALYSIS AND GEOMETRY (Vol.93~	Q	理学・数理科学科
7 CORNEA	B	医学・眼科学
8 CRYOGENICS	M	工学・電気電子工学
9 CURRENT EYE RESEARCH	M	医学・眼科学
10 CVGIP. IMAGE UNDERSTANDING=COMPUTER VISION, GRAPHICS, AND IMAGE PROCESSING, IMAGE UNDERSTANDING	B	工学・機械システム工学
11 ENVIRONMENTAL ETHICS : AN INTERDISCIPLINARY JOURNAL DEDICATED TO THE PHILOSOPHICAL ASPECTS OF ENVIRONMENTAL PROBLEMS	Q	法文・人間行動専攻
12 GEOCHIMICA ET COSMOCHIMICA ACTA	M	理学・海洋自然科学・化学系
13 HASTINGS CENTER REPORT	B	法文・人間行動専攻
14 HEAD AND NECK	8N	医学・歯科口腔外科学
15 IEEE TRANSACTIONS ON IMAGE PROCESSING	Q	工学・情報工学
16 IEEE TRANSACTIONS ON ROBOTICS AND AUTOMATION : A PUBLICATION OF THE IEEE ROBOTICS AND AUTOMATION SOCIETY	B	工学・機械システム工学
17 IEEE TRANSACTIONS ON SPEECH AND AUDIO PROCESSING	Q	工学・情報工学
18 IEEE TRANSACTIONS ON VERY LARGE SCALE INTEGRATION (VLSI) SYSTEMS	Q	工学・情報工学
19 IEEE/ASME TRANSACTIONS ON MECHATRONICS	Q	工学・機械システム工学
20 INFORMATION AND COMPUTATION	M	理学・数理科学科
21 INTERNATIONAL JOURNAL OF COMPUTER VISION	Q	工学・機械システム工学
22 INTERNATIONAL JOURNAL OF INTERCULTURAL RELATIONS	Q	法文・人間行動専攻
23 JOURNAL OF ALGEBRAIC GEOMETRY (Vol.92~)	Q	理学・数理科学科
24 JOURNAL OF ALGORITHMS	Q	理学・数理科学科
25 JOURNAL OF APPLIED PHILOSOPHY : JOURNAL OF THE SOCIETY FOR APPLIED PHILOSOPHY	F	法文・人間行動専攻
26 JOURNAL OF APPLIED SOCIAL PSYCHOLOGY	S	法文・人間行動専攻
27 JOURNAL OF BANKING & FINANCE	B	法文・経営学専攻
28 JOURNAL OF BUSINESS ETHICS : JBE	M	法文・人間行動専攻
29 JOURNAL OF CATARACT & REFRACTIVE SURGERY	10N	医学・眼科学



30	JOURNAL OF COST MANAGEMENT	Q	法文・経営学専攻
31	JOURNAL OF CRANIO-MAXILLO-FACIAL-SURGERY	6N	医学・歯科口腔外科学
32	JOURNAL OF CROSS - CULTURAL PSYCHOLOGY	B	法文・人間行動専攻
33	JOURNAL OF FINANCIAL ECONOMICS	B	法文・経営学専攻
34	JOURNAL OF KNOT THEORY AND ITS RAMIFICATIONS (Vol.1~)	Q	理学・数理科学科
35	JOURNAL OF NEONATAL NURSING	Q	保健・母子看護学
36	JOURNAL OF NEURO-ONCOLOGY	15N	医学・脳神経外科学
37	JOURNAL OF NURSE-MIDWIFERY	6N	保健・母子看護学
38	JOURNAL OF SPORT MANAGEMENT	F	教育・保健体育
39	JOURNAL OF TIME SERIES ANALYSIS	Q	理学・数理科学科
40	MEDICAL JOURNAL OF AUSTRALIA	S	法文・人間行動専攻
41	MOLECULAR UROLOGY	Q	医学・泌尿器科学
42	NEURON	M	医学・解剖学第一
43	RANDOM STRUCTURES AND ALGORITHMS	Q	理学・数理科学科
44	SIAM JOURNAL ON DISCRETE MATHEMATICS : A PUBLICATION OF THE SOCIETY FOR INDUSTRIAL AND APPLIED MATHEMATICS	Q	理学・数理科学科
45	THE INTERNATIONAL JOURNAL OF ROBOTICS RESEARCH	Q	工学・機械システム工学
46	TREE PHYSIOLOGY	Q	理学・海洋自然科学・生物系

## 1998年購読中止外国雑誌

1	ACADEMIC RADIOLOGY	医学・放射線医学
2	AMERICAN JOURNAL OF CLINICAL NUTRITION	教育・家政専攻
3	AMERICAN JOURNAL OF PHYSICAL ANTHROPOLOGY	医学・解剖学第一
4	AMERICAN JOURNAL OF VETERINARY RESEARCH	農学・生物生産
5	ANALYTICAL CHIMICAL ACTA (INCL. VIBRATIONAL SPECTROSCOPY	理学・化学
6	AVIAN DISEASES	農学・生物生産
7	BUCHEREI DES AUGENARZTES	医学・眼科学
8	CA SELECTS PLUS: CARBON & HETEROATOM NMR	図書館/農学共通/ 理学・化学
9	CA WEEKLY ISSUES PLUS + CA VOLUME INDEXES	図書館/農学共通/ 理学・化学
10	CLINICAL NUCLEAR MEDICINE	医学・放射線医学
11	COLLEGE ENGLISH	教育・英語専攻
12	DIABETES CARE	医学・内科学第二
13	ELEKTROTECHNISCHE ZEITSCHRIFT : ETZ	工学・電気電子
14	ENGLISH JOURNAL	教育・英語専攻
15	ESSAYS IN CRITICISM	教育・英語専攻
16	FEEDSTUFFS	農学・生物生産
17	HARVARD EDUCATIONAL REVIEW	法文・人間行動専攻
18	IEEE TRANSACTIONS (R-007 RELIABILITY)	工学・機械システム
19	INDEX MEDICUS	医学・コアジャーナル

20	INDUSTRIAL EDUCATION	教育・技術教育
21	INTERNATIONAL SUGAR JOURNAL	農学・生産環境
22	JOURNAL OF INTELLECTUAL DISABILITY RESEARCH	教育・特殊教育
23	JOURNAL OF NEUROSCIENCE METHODS	医学・脳神経外科学
24	JOURNAL OF TEXTURE STUDIES	農学・生物生産
25	KLINISCHE MONATSBLAETTER FUER AUGENHEIKUNDE	医学・眼科学
26	MANAGEMENT SCIENCE	法文・経営学専攻
27	MATHEMATICAL PROGRAMMING	工学・情報工学
28	MATURITAS	医学・成人保健学第二
29	METEOROLOGICAL MAGAZINE	教育・情報教育
30	NINETEENTH-CENTURY LITERATURE	教育・英語専攻
31	NUTRITION ABSTRACTS & REVIEWS SERIES A : HUMAN & EXPERIMENTAL	農学・生物生産
32	PALAEOGEOGRAPHY, PALAEOCLIMATOLOGY, PALAEOECOLOGY + GLOBAL AND PLANETARY CHANGE	農学・生産環境
33	PHI DELTA KAPPAN	法文・人間行動専攻
34	PSYCHOLOGICAL ABSTRACTS WITH ANNUAL INDEX	法・社・教育心理学/教育・教育心理
35	QUARTERNARY RESEARCH	農学・生産環境
36	RADIOTHERAPY AND ONCOLOGY	医学・放射線医学
37	REGIONAL AIR INTERNATIONAL (CF:COMMUTER AIR INTERNATIONAL	教育・社会専攻
38	SEMINARS RADIATION ONCOLOGY	医学・放射線医学
39	SKELETAL RADIOLOGY	医学・放射線医学
40	SOLID STATE / SUPERCONDUCTIVITY ABSTRACTS	工学・電気電子
41	THEORETICAL & APPLIED GENETICS	農学・生物生産
42	YEAR BOOK OF NUCLEAR MEDICINE	医学・放射線医学
43	YEAR BOOK OF ONCOLOGY	医学・放射線医学

※ 8「CA SELECT」・9「CA WEEKLY」は1998年版からCD-ROMに変更されます。

## 1998年新規購読国内雑誌

1	DESIGN NEWS	年刊	法文・地理・人類学専攻
3	鹿児島民俗	年3回	法文・地理・人類学専攻
4	看護実践の科学	月刊	保健・成人・老人看護学
5	季刊考古学	季刊	法文・地理・人類学専攻
6	教育国語	季刊	教育・国語教育
7	こころの看護学	季刊	保健・成人・老人看護学
8	産科と婦人科	月刊	医学・産婦人科
9	小児看護	月刊	保健・母子看護学
10	数学のたのしみ	隔月刊	教育・数学教育
11	性格心理学研究	年刊	法文・人間行動学専攻

12 西郊民俗	季刊	法文・地理・人類学専攻
13 民具マンスリー	月刊	法文・地理・人類学専攻
14 民俗	季刊	法文・地理・人類学専攻
15 臨床看護	月刊	保健・成人・老人看護学
16 老年看護学	年刊	保健・成人・老人看護学

## 1998年購読中止国内雑誌

1 看護展望	保健・成人・老人看護学
2 教育心理学研究	教育・特殊教育
3 教育心理学年報	教育・特殊教育
4 健康管理	保健・保健管理学
5 サッカーマガジン	教育・保健体育
6 歯科基礎医学会雑誌	医学・歯科口腔外科学
7 児童心理	教育・特殊教育
8 食品工業	教育・家政
9 心身医学	保健・成人・老人看護学
10 精神医学	医学・精神衛生学
11 生物環境調節	農学・生物生産
12 日本眼科学会雑誌	医学・眼科学
13 日本眼科紀要	医学・眼科学
14 農業技術	農学・生物生産
15 農耕と園芸	農学・生物生産
16 分光研究	理学・化学
17 ラグビーマガジン	教育・保健体育

## 本学教官著作寄贈図書案内

1997年8月～1997年10月

Anthony P. Jenkins (法文学部)  
 記録史料の情報資源化と史料管理学の体系化に関する研究：特定研究 / 国文学研究資料館史料館 [編] 東京：国文学研究資料館史料館，1997.3 (研究レポート，1)  
 014.7-KE

崎原 盛造 (医学部)  
 沖縄の気候・風土と長寿に関する研究，平成8年度 [西原町] (沖縄県)：[崎原盛造]，1997.3  
 WT116

沖縄長寿総合調査報告書 東京：長寿社会開発センター，1997.3 WT116

終山 幸志郎 (医学部)  
 老年者のADL阻害要因とQOL調査に基づく介護福祉対策事業報告書 東京：日本循環器管理研究協議会，1997.3 WY101

注) 各資料末尾の記号は請求記号です。

## 本学紀要類紹介： 理学部



『琉球大学理学部紀要』(Bulletin of the College of Science University of the Ryukyus)

発行者： 琉球大学理学部  
1957年創刊 B4版 年2回発行  
ISSN-0286-9640

本誌は、『文理学部紀要—理学編—』(1957)、『理工学部紀要—理学編—』(1967)、『理学部紀要』(1979)と学部改組にともなって名称を変え、原則として年2回(3月と9月)刊行され、今年度9月には第64号が発行される予定である。

より質の高い理学部紀要を目指すべく、編集方針を定めた編集規約・投稿規定等が制定され、かつ紀要の編集および出版に関する責務と然るべき権限が紀要編集委員会に負わされている。

投稿資格者は、本学部の現・前(元)教職員、本学他学科の教職員および当該論文の

研究を本学部で行った外来研究者・大学院生・学部学生で、かつ編集委員会の合意を得た者である。

出版費用は、原則として学部共通経費をあて、毎回350部が刊行され、国内・国外はもとより各種研究機関等へも交換用図書として発送されている。

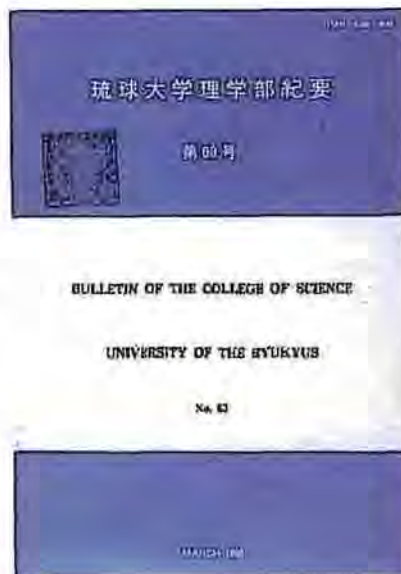
本誌への投稿原稿は、理学に関する原著論文・総説論文、発表すべき資料・データ、その他、編集委員会が妥当と認めたもので、かつ他に印刷・公表されていないものに限られる。

使用言語は、英語または日本語で、投稿に先だって原稿の内容について最も適した校閲者(一人以上)の吟味を得なければならない。

なお、定年退官の教官がいる年度には、退官者のプ

ロフィールおよび研究業績が紹介される慣例となっている。

(紀要委員 伊佐英信)



### 図書館内に検索用端末が増設されます！

現在、図書館内での利用者検索用端末が不足しており、ご不便をおかけしております。その対策として、このたび各方面のご理解とご協力により15台の検索用端末が増設されることになりました。これにより、検索用端末が空くまでの待ち時間が解消されるのはもちろんのこと、図書館内の「ライブラリー・ワークショップ」においても受講者自身がパソコンに触れる機会が増すことにより、効果的に受講できるようになることが期待されます。実際に検索用端末が利用できるまでには多少の時間がかかりますので、利用が可能になりましたらあらためてホームページ等でお知らせします。

## 「宮良殿内文庫貴重資料展」

盛況のうちに終わる 一約350名が見学一

附属図書館は、所蔵する貴重な資料を広く一般にも公開するという趣旨で「資料展示会」を毎年行っています。今年は通算第5回目の展示会として「宮良殿内文庫貴重資料展」を開催しました。平成9年11月11日から21日までの11日間、附属図書館多目的ホールで開催されたこの展示会には、その模様がテレビ、新聞で紹介されたこともあって、学内外から約350名の多数の方が見学に訪れました。

「宮良殿内文庫」というのは、琉球王府時代、八重山石垣で代々八重山の頭職（八重山の「かしらしょく」は宮良間切の他に石垣・大浜間切に各1名の頭職がおり3頭制）を勤めていた宮良家に伝わる宮良殿内文書（みやらどうんちもんじょ）類のことで、その内容は多岐にわたり、資料の範囲は明和の大津波（1771年）から明治の琉球処分（1879年）前後まで含まれており、八重山研究の一級資料といわれております。この文書類は、宮良家第10代当主宮良當智氏のご芳志で、昭和37（1962）年に本学へ寄贈されました。これら300点近い多数の貴重な資料群を当館では「宮良殿内文庫」として保存してきましたが、これまで内外の多くの研究者に活用され、その成果は研究論文、報告書として出されております。

今回の展示会は会場の都合もあって、宮良殿内文庫の中から選んだ下記の16点と宮良殿内文庫ではありませんが、八重山に関する資料である「藻算」（ジョージ・H・カー氏寄贈）の計17点を展示しました。

- No.1. 「進貢船・接貢船、唐人通船・朝鮮人乗船・日本他領人乗船、各漂着并破損之時、八重山島在番役々勤職帳（しんこうせん・せつこうせん、とうじんつうせん・ちょうせんじんのりふね・にほんたりょうじんのりふね、おのおのひょうちやくならびにはそのときやえやまじまざいばんやくやくきんしよくちやう）」
- No.2. 「八重山島蔵元公事帳（やえやまじまくらもとくじちやう）」

- No.3. 「八重山島山職務帳（やえやまじまそまやましよくむちやう）」
- No.4. 「八重山島諸座御規模帳（やえやまじましよざおきもちやう）」
- No.5. 「（瓦葺き屋敷をカヤ葺きへ戻すことを通達した）覚」
- No.6. 「頭役被仰付候以来日記（かしらやくおおせつけられそうろういらいにつき）」
- No.7. 「（仮）墓地風水図（ぼちふうすいず）」
- No.8. 「（八重山島へ一世流刑）手形」
- No.9. 「祭之時膳符日記（まつりのときぜんぷにつき）」
- No.10. 「好生要伝（こうせいようでん）」
- No.11. 「琉歌集（りゅうかしゅう）」
- No.12. 「大和歌集（やまとかしゅう）」
- No.13. 「鄭嘉訓書（ていかくんしよ）」
- No.14. 「馬絵（うまえ）」
- No.15. 「笛并鼓大小太鼓打合段（ふえならびにつつみだいしょうたいこうちあいだん）」
- No.16. 「太上感應篇大意（たいじょうかんのうへんたいい）」

ところで、貴重資料展示会の開催に当って学内の教官から多大なご協力を賜りました。法文学部の池宮正治教授から宮良殿内文庫の概要についての玉稿を頂きました。また展示資料について池宮正治教授の他に教育学部の金城須美子教授及び豊見山和行助教授から各々貴重な解説文を頂きました。更に宮良家より系図の写しをご送付頂きました。ここに厚くお礼申し上げます。

現在、附属図書館では平成9年度の文部省の科学研究費により宮良殿内文庫の画像データ作成（電子化）の取組みを行っており、その解説に当って上記の3名の教官の他に、法文学部の上里賢一教授並びに高良倉吉教授の二人のご協力を頂いております。これについては作業が完了後、今年3月までには、インターネットを通して学内外に公開する予定です。（資料展示委員会）

## 図書館ボランティアに感謝状贈呈

このたび、附属図書館の利用者に対して援助をしていただいている図書館ボランティアに感謝状が贈呈された。

附属図書館では平成8年11月より図書館ボランティアを導入しているが、1年を経過し現在なお活動中の9名のボランティアに贈呈することになり、12月16日（火）11時より図書館長室において金城館長より一人一人に贈呈された。

9名の各ボランティアは、仕事を持つ傍ら、また学生は授業の合間に活動しており、1年

間のほぼ一か月間ボランティア活動をしたことになる。

10月に図書館で実施した「利用者アンケート」では、ボランティアに対する感謝の言葉が非常に多く寄せられた。今後とも図書館ボランティア制度の継続のために、図書館側ではボランティアに対する研修・教育の充実やボランティア同士の交流会開催の他、ボランティア制度のPRに努めたいと思っている。

（情報サービス課）



感謝状贈呈風景（館長室にて）



遡及入力作業風景

## 遡及入力を実施中

図書館3階のニューメディア室の奥半分で、端末に向かって一心不乱で作業している集団にお気づきの方もいるかと思います。これは図書目録情報の遡及入力を行っているところです。

図書館では、30万余冊の図書の目録情報をコンピュータに入力して、端末から検索できるようにしていますが、まだ未入力の図書が書庫や研究室に約33万冊ほどあります。また、入力済みのデータの中にも簡略な形で入力され学術情報センターに登録されていないデータが約17万件あります。図書館では、これら

の未入力図書と簡略データ計50万件を対象に、10年計画で遡及入力にとりかかりました。

昨年度は2万冊を入力しました。今年度以降は毎年4万冊の入力を計画しています。

今年度の作業期間は11月より3月までです。主として増築書庫2階の3～4類の書架の入力対象図書をニューメディア室に移して、学術情報センターに登録しながら当館にもダウンロードしています。データが徐々に整備され、利用しやすくなります。作業中にご迷惑をおかけするかもしれませんが、よろしくご協力ください。（図書情報係）

## 琉球大学附属図書館のあゆみ -シリーズ①-

豊平朝美

はじめに

琉球大学附属図書館が1950年に創設されてから、半世紀近くなろうとしている。今日の附属図書館の発展を見ると、この陰に先人たちのたゆまざる苦勞があったように思われる。さらに創設後もハワイ県人会等海外の同胞、ミシガン大学等米国大学及び文部省を始めとする本土諸大学による様々な援助のもとで資料の収集や、人材育成等が図られたことが挙げられる。そこで、図書館先輩諸氏の限らない努力と研鑽を改めて見詰め直し、これからの私達の道しるべにしていきたいということで附属図書館の足跡をたどってみた。

### ◎ 草創期（1950年代）

1949年6月8日大学の本館と共に附属図書館の建築が始められ、翌年の1950年4月25日に守礼の門より坂を上がった右側に床張りの木造瓦葺建が竣工した。創立当初の蔵書は軍及びハワイ在住沖縄県人会等の海外同胞からの寄贈図書が凡そ3万冊で、大半が洋書であったという。「琉大風土記」によれば、工事期間中の1949年9月、沖縄外国語学校名護分校で英語の教師をしておられた東江康治氏（元学長）が民政府からの依頼で、教室に寝泊りしながら開校間近い琉大に送られてくる図書の分類作業をしていた。当時のことゆえ書籍のない時代で、真新しい洋書の原書は魅力的であったようだ。

図書館は、1950年5月5日に琉球大学文化センター（インフォメーションセンター）として開館した。インフォメーションセンターでは最新の日米の書籍、雑誌その他の情報資料を備え、世界ニュースや映画も放映されていたという。5月22日には琉球大学が開学した。1952年4月、仲宗根政善教授が初代館長として就任した。1953年5月、文部省図書館職員養成所で図書館学を専攻した平良恵仁氏が仲宗根政善教授と呼ばれ（在職中の本人から直接聞いた話による）、図書館司書として勤務した。当時の図書館は活字に飢えた

学生たちで遅くまで利用され時間がきてもなかなか閉館できなかったという。平良氏はその後、1957年に事務長事務取扱、1960年に初代事務長として定年退職までの30余年勤務し、今日の琉球大学附属図書館の基盤を築いた。1958年4月、本土の国立各大学に図書館運営方法、職務分掌、機構など照会し、手探りの中から、草創期の図書館運営に様々な苦心をした。図書館職員の増員に腐心し、組織の強化と見直しを図ってきた。1954年4月より夜間開館の実施、殊に図書館職員の資質向上の為、講習会等は機会あるごとに実施してきた。中央図書館制度を導入し、資料の効率的運用を図り、蔵書の少ない図書館の整備のため、本土の各大学、機関に絶えず資料の寄贈依頼をし、更に、戦火で焼失した沖縄関係資料の収集については、マイクロ複製等を含めてあらゆる機関を通じて入手に努め、今日の沖縄関係資料の整備基盤をなした。

### ◎宝くじの発行

1952年初代学長の志喜屋孝信氏の退官を機にその業績を記念するため、新図書館の建設を計画した。琉球大学ファウンデーションが開学記念文庫基金をもとに1954年4月1日、琉米親善委員会の協力で1鍵1ドル景品付き宝くじ22万本を発行、1位は賞金1万ドル（120万B円）で2位から4位まで外国の高級車が当たるといったセンセーショナルな宝くじで人々の関心を引き起こした（注、B円はB型円軍票のことで戦後沖縄の米軍統治下時代の通貨で1948年7月にドルの替わりに法定通貨として指定され、1958年9月のドル交換にいたる10年間使用されたもので1ドルは120B円に相当する）。当時の地元の新聞（沖縄タイムス、琉球新報1954年4月）によると琉大の職員、学生も街頭に繰り出し道行く人々に志喜屋記念図書館の建設に協力しましょうと呼び掛け「幸運のカギ」「琉米親善のカギ」と称した宝くじを売り出したこと等が載っている。女子学生はというと街頭だけでなく、

行政府にも乗り込み、官吏たちも女子学生群を見て右往左往、あわてて金色のカギを胸につけたという。宣伝のためサウンドカーを先頭に3台のトレーラに乗せて市内を走る賞品の高級車は人々の目を引いた。その頃の思い出として、車の特大のキーを持ったアメリカの女性が外国車に乗って、はなやかに街をパレードしていたように覚えている（中学生だった私はそれが図書館建設の資金の一部とは知らずに）。宝くじは5月26日のペルリ来琉百年記念祭に発表された。「琉大風土記」によれば一等に当たった人は高校の教諭をしていた金城金蔵という名前からしていかにもお金に縁がありそうな人で、当時話題になったそうである。賞金の120万円は琉大に20万円、その他に育英資金と赴任校の図書館建設資金等に充て、本人には一円も入らなかった。それどころか周りからお金を貸してくれと言われたり、寄付の依頼がきたりして身内にとって良いことではなかったという。ポスターは美術の教官の安次富長昭先生（当時学生）のデザインで原本は現在図書館に保管されている。この純益金（4,515,250B円）と住民の寄付金（451,512B円）に加えて不足分はファウンデーション理事長ディフェンダーが琉球銀行から借款することで1954年6月17日に着工、総工費2,175万円で眼下に竜潭池を見下ろす見晴らしのよい丘に5階建の総タイル張りの近代的な図書館が1955年12月10日に竣工し、翌11日に軍官民多数参列のもとに盛大な譲渡式が挙行された。図書館は初代学長の志喜屋孝信氏の名にちなんで「志喜屋記念図書館」と命名され玄関には志喜屋記念図書館の銘板が英文と和文左右別々に掲げられた（その石板は現在の千原団地移転の際に取り外され、附属図書館の戦後資料室に保管されている）。志喜屋記念図書館から見晴らせる竜潭池はいにしへの王朝時代に中国の冊封使（中山王を冊封するために来琉した中国の使者）を歓待するために爬竜船競争や御冠船踊り（宮廷舞踊）を催したという。年中、池水滴々とたたえ竜潭池に映る附属図書館の影も見事な光景であった。1948年12月来島したマッカーサ指令部琉球局長ジョン・H・ウェッカリング准将と山城文教部長との間で首里城跡が琉球の

政治と教育に深いところから、大学を設立するのにふさわしい所との意見の一致を見て、首里市民の大多数の賛同もあって、決定した。現在の図書館長室に掲げている英文のマッカーサー書簡（写し）に首里城に創設した琉球大学の建学のいわれが記されている。元同窓会長の和氣氏によれば1950年5月に開学した当初は校内は至る所に砲爆弾にえぐられた深い穴があり、その破片は王城の瓦礫と共に無数に散在して、その穴埋めのために学生は労務を提供したそうである。来る日も来る日も労務に追われ、現実と理想のギャップで学業を中途断念するものも多数いたという。1946年訓練学校として発足した具志川村にあった外国語学校と文教学校が首里に移転してきた。夏の炎天下で職員、学生が一丸となって奉仕して職員の住宅の建設にあたった。こうして両校を併合して開学した琉球大学は1950年5月22日に、英語学部、教育学部、社会科学部、理学部、農学部、応用学芸学部の6学部編成の規模で1、2年次合わせて562人の学生、44人の教官を擁し、戦前、戦後を通じて沖縄で初の大学がスタートすることになった。その年11月4日に当時の沖縄民政府知事の要職にあった志喜屋孝信氏を初代学長に迎え、大学としての陣容が整った。それまでの間、安里源秀氏が学長代理として就任した。当初はどの学部でも英会話の授業があったという。附属図書館は創立当初は1名でスタートし、1952年は2名、53年5月に4名増員、53年12月に図書館の組織は司書係と奉仕係の2係で構成し、司書係は庶務、会計、目録、分類等を、奉仕係は閲覧、貸出、参考、印刷、製本、読書相談等を担当した。54年には定員13名となり大学図書館としての基礎が確立された。56年に総務係、整理係、運用係の3係16名に掃除婦2名を加えた18名になり、その業務内容は総務係は庶務、渉外、受入等、整理係は分類目録、図書保存、曝書、防虫、運用係は図書の閲覧、貸出、参考業務等であった。57年2月、3名の増員を決定、定員21名になった。1954年4月より、夜間開館を午後9時30分まで、2名のアルバイトと職員1名計3名体制で実施した。開館時間の延長と図書の充実に伴い、入館者が急速に増え、閲覧室の外



にあふれ、館内の混雑を緩和するため、閉架式閲覧方法が採用された。館外貸出状況は1953年度は12,031冊であったのが1954年度は29,256冊に倍増し、図書費も1952年度より年間2百万B円になった。

#### ◎中央図書館制度

1953年7月1日に中央図書館制度を採用、それまで学部にあった図書を図書館で集中管理して、学部割当て予算を一元化して、図書館で運営する方針に改めた。ここに今日の中央図書館制度の基礎が確立されたのである。又、県民にも広く資料を開放、創立当初の頃から地域に開かれた図書館として親しまれてきたのである。

#### ◎宿直制度

木造建築時代の図書館は頻繁に盗難事件があり、1954年2月後半から宿直制度を導入、図書館員2名を交替で配置して、盗難及び火災防止に努めた。盗難の状況はコソ泥的性質のもので、警備員は遠くにいたため管理が十分行き届かなかったことによる。4月の夜間開館（9時30分閉館、職員午後10時退庁）の実施により宿直制度を中止し、代わりに警備員が午後9時30分から翌朝まで勤務するようになった。

#### ◎建物

当初図書館は新館5階建の1階から3階まで使用し、3階閲覧室の一部に新聞雑誌を置いていた。1階は蔵書室並びに閲覧室、中2階は蔵書室、郷土資料室、3階は会議室並びに閲覧室、4階は教育学部並びにミシガン大学教授研究室、5階は文理学部教授研究室になっていた。火災復旧後、4、5階の教官研究室を廃止し、5階をホールとして講演、英語弁論大会やクラブの発表会等に利用したが、1962年以降全階図書館として使用することになった。

#### ◎高校生の図書館利用

首里、那覇市内の高校生が自習を目的にした本館利用が増え、学内の利用者の座席数も余裕のないことから、その対策のため、1958年1月に市内高校長あて資料の利用に対しては出来る限り閲覧の便を図るので、閲覧希望の図書名等の証明書を各高校で発行し、本人に携帯させるよう協力依頼している。

#### ◎雑誌名の募集

1958年2月、図書館発行の雑誌に、モダンな名前を付けるべく、誌名の募集のため図書館員に賞金1等百円の懸賞金をかけた（4月にU. R. L. レビュー第1号誕生）。当時は、出版物の発行に際して、行政主席の認可が必要であった。学内の職員、学生を対象にその内容は、「図書館の問題」、「書評、出版案内」、「入荷図書リスト」、「重要記事索引」等である。隔月刊で1,500部の範囲の刊行の申請を3月に行ない、4月に第1号を発行している。

#### ◎読書調査と図書館に関するアンケート

1953年10月に読書週間、志喜屋記念図書館設立の参考に資するため学生の読書に対する調査を行い、図書、雑誌の読書傾向、図書館の利用度、希望を聞いている。1958年5月5日から10日までの1週間、学生に対して来館の目的、目録カードの利用の仕方、貸出方式、開館時間、請求図書の有無、その他図書館に対する要望事項等調査している。さしづめ今日の自己点検評価のアンケートのはしりというところであろうか。

#### ◎オリエンテーション

1958年4月の新入生へのオリエンテーションでは喫煙室以外での禁煙、図書の保存上、塵埃の防止は必要なので泥靴は十分洗い落として入館すること、館内の湿気防止の為、雨具類は閲覧室に持ち込まないこと等を注意している。その他、館内の出入り口として1階北側玄関（竜潭池側）、3階玄関、及び3階東側通用門の3カ所を指定して、それ以外の出入りを禁じている。館内での利用は閲覧証と引き換えに「図書借覧証」に記入して係員より図書を受け取る出納式であった。1階は書庫と開架図書があり、2階（中2階）は洋書庫、3階は雑誌、辞典、指定図書、郷土資料等の貴重図書、全集等の高額図書が配置されており、自由に閲覧できるが貸出は出来ない。館外貸出は1人2冊まで10日間で他に予約者が無い限り2回まで延長出来る。オリエンテーションは新入生566名に対して、図書館で学部別に3つにわけ、1番多い文理学部は5階ホール、教育学部は1階閲覧室、農家政学部は3階雑誌室で3名の図書館員が各々

分担して行っている。

#### ◎学生アルバイト

創立当初から学生アルバイトを採用して、ラベル張り、基本カード、閲覧カード作成等にあたり、その他書架の整頓等に割り当てられた。1953年当時、学生アルバイトは時給10円（B円）で個人差はあるが月平均40時間弱（400円）勤務している。1954年5月には時給15円（B円）になっており、その頃の図書館職員の給料が月額平均4,000円弱であった。この中から卒業後図書館職員になった人もいる。

#### ◎職員研修

機会ある毎に講習会を開き、1953年に図書館職員の資質向上を計るため図書館を2日間にわたり閉館して午前9時から午後4時まで、館内で第1回の実務講習会を行っている。講師は平良氏が図書館経営と図書目録法を、大宜見氏が図書分類法と図書館奉仕を担当している。又、司書養成のため本土夏季講座に参加、公費及び自費で職員を派遣している。1957年12月26日から27日まで本館の司書を講師にして、図書館1階で研修会を開催した。大学職員以外でも広く学外の中高校教員、文化会館職員等に無料で門戸を開放して、図書分類法、図書目録法などを指導した。午前は図書分類法を大城重雄氏が、午後は図書目録法を山田勉氏（部制後の初代閲覧課長）が担当し、2日目は午後の研修終了後、研究討議に入り終了している。2日間の研修期間に学校図書館関係者など多数の教員が参加している。又、夏季の休暇を利用して、図書館職員の研修を実施し、職員自身が講師になり担当する業務を各々2～3時間程度説明している。

#### ◎火災

新館設立まもない翌年の1956年9月3日午前9時頃、図書館4階にあるミシガン派遣団教官室から出火、4階、5階は全焼、3階は辛うじて類焼を免れた。図書3,000余冊が焼失し、被害総額千数百万円であった。火災後、篤志家の寄付があり、火災保険金と一般見舞金及び琉球政府補助金により、翌年の7月には4、5階は完全復旧した。出火の原因は漏電で当時はハシゴ消防車がなく、4階まで放水が届きかねて消火に手間取り5階まで類焼

したといわれている。火元に届かない消火ため、やじ馬から投石され窓ガラスが割れた。その為、かえって空気の流れが良くなり、折りからの台風の余波による強風などで益々火の勢いを増したという。火災は軍民消防隊員の協力で2時間以内で鎮火した。「琉大風土記」によると、キャンパス内のK S A R ラジオでも実況放送されたという。3日の夕刊によると、首里高校では警報とともに授業を中止して、高校生が現場に駆け付け、列をつくって図書館から手渡しで館外へ資料等運びだした。伊波文庫など貴重な蔵書は幸い難をまぬかれたが、4階、5階にあった文理、教育学部各教官室の貴重な地図類や教官の多年の研究資料、学術資料が焼失した。ラジオの呼び掛けで5日の午前9時から那覇近郊の職員、生徒約300名が集まり、4、5階のガラン堂になった焼け跡からスコップでかいだし、バケツ等で片付けたが、復旧まで1ヵ月を要した。

#### ◎郷土資料

先の大戦で郷土資料の入手は困難を極めているが、1955年5月20日、ロックフェラー財団より図書購入費として琉球大学ファウンデーションに5,000ドル（60万B円）の寄付があり、その中の15万円で伊波普猷文庫を購入した。1957年5月には島袋源七氏蔵書115冊を受け入れた。その他、国会図書館、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島県立図書館所蔵の文献収録にもマイクロフィルムその他の複製等で人手して、各図書館の好意ある援助を受けている。

#### ◎国際交換業務

1886年ブリュッセルにおいて、各国の図書館の国際相互協力の下に広く文献資料の交流を計る目的で「公文書、学術的刊行物の国際的交換に関する条約」が結ばれ、日本は準条約国として参加している。1955年7月14日より米国議会図書館、ニューヨーク公共図書館とは相互に文献交流を目的として始め、紀要類を交換受入れ、当館からは琉球内の出版物、政府刊行物、大学内の出版物を送付している。つづく（とよひら ともみ：図書館専門員）



宝くじの宣伝用ポスター



当時発行されていたB型円軍票 (B円)

## お知らせ

- ◎ 2月の試験期祝日開館について  
平成10年2月11日(水)は建国記念日ですが、試験期のため開館します。  
開館時間 13:00~17:00
  - ◎ 長期貸出について  
長期貸出は平成10年2月20日(金)から開始します。  
返却期限は平成10年4月13日(月)迄です。
  - ◎ 春季休業について  
平成10年2月24日(火)~3月31日(火)は春季休業で開館時間に変更があります。  
中央館の開館時間は月曜日~金曜日 8:30~17:00  
土曜日・日曜日 閉館  
医学部分館は通常どおり夜間開館を行います。  
月曜日~金曜日 8:30~21:00  
土曜日・日曜日 13:00~17:00
- ※ 本館では当月、翌月の開館案内(カレンダー)を入口及び掲示板に掲示しています。  
ご留意ください。

# 沖縄関係資料新着案内

1997年8月～1997年10月

## 0類 総記

1. 民間学事典, 事項編/鹿野政直, 鶴見俊輔, 中山茂編 東京: 三省堂, 1997.6  
K002-MI
2. 民間学事典, 人名編/鹿野政直, 鶴見俊輔, 中山茂編 東京: 三省堂, 1997.6  
K002-MI
3. 笑う!うちなーぐちFAX小全, 2/ラジオ沖縄「前田すえこのいいことありそうウィークエンド」沖縄探検隊編 那覇:ポーターインク, 1997.8  
K049-RA
4. 岸秋正文庫の世界: 沖縄へのまなざし: 沖縄県公文書館特別展/沖縄県公文書館編 南風原町(沖縄): 沖縄県公文書館, 1997.8  
K090.2-KI
5. 汪楫冊封琉球使録三篇/汪楫[著]; 原田禹雄訳注 宜野湾: 榕樹書林, 1997.9  
K092.4-OU

## 2類 歴史

1. 沖縄を知る日本を知る/新崎盛暉著 大阪: 部落解放研究所, 大阪: 解放出版社(発売), 1997.4 (人権ブックレット, 51)  
K200-AR
2. ハヤト・南島共和国/中村明蔵編 鹿児島: 春苑堂出版, 1996.3 (かごしま文庫, 29)  
K219-NA
3. 具志川市史, 第3巻: 民話編上: 伝説/具志川市史編さん委員会編 具志川: 具志川市教育委員会, 1997.3  
K224-GU
4. 羽衣Book: ぎのわん市民便利帳/沖縄広報センター[編] 宜野湾: 宜野湾市広報広聴課, 1997.1  
K228-OK
5. 那覇市史, 通史篇第1巻/那覇市企画部文化振興課編 那覇: 那覇市役所, 1985.8  
K231-NA
6. 爽風一過: 外間政彰追悼文集/外間政彰追悼文集刊行委員会編 [那覇]: 外間政彰追悼文集刊行委員会, 1997.6  
K289-HO
7. 素顔の伊波普猷/比嘉美津子著 那覇: ニライ社, 1997.8  
K289.1-HI
8. 首里城周辺史跡マップ: 首里城普及書

- /古塚達朗[ほか]著 [那覇]: 海洋博覧会記念公園管理財団, 1997.3 K290.38-SH
9. ゼンリン住宅地図: 沖縄県: 宜野湾市, 1997, 北九州: ゼンリン, 1997.10  
K290.38-ZE
  10. ゼンリン住宅地図: 沖縄県: 具志川市, 1997 北九州: ゼンリン, 1997.8  
K290.38-ZE
  11. ゼンリン住宅地図: 沖縄県: 糸満市・具志頭村・大里村・玉城村, 1997 北九州: ゼンリン, 1997.8  
K290.38-ZE
  12. 沖縄: 若夏の記憶/大石芳野著 東京: 岩波書店, 1997.6  
K290.9-OI
  13. おきなわJOHOデータブック, '97/おきなわ情報 [編] 那覇: おきなわ情報, 1997.6  
K291.9-OK
  14. ペルリ提督琉球訪問記/ペルリ [著]; 神田精輝著訳 東京: 国書刊行会, 1997.7  
K291.99-PE
  15. 奄美、もっと知りたい: ガイドブックが書かない奄美の懐/神谷裕司著 鹿児島: 南方新社, 1997.7  
K296-KA

## 3類 社会科学

1. 冷戦後の日本と沖縄: その自立・共生・平和の展望: 日本平和学会1996沖縄研究集会報告集/佐久川政一, 鎌田定夫編 東京: 谷沢書房, 1997.6  
K302-SA
2. 筑紫哲也の「世・世・世 (ゆーゆーゆー)」: おきなわ版「多事争論」, パート2/筑紫哲也著 那覇: 沖縄タイムス社, 1997.7  
K302-TU
3. 「地域が主役」とは: 1980-1984年/有村善一著; 柳瀬吉雄編 [宜野湾]: 有村善一著作集刊行委員会, 宜野湾: 榕樹書林(発売), 1997.9 (社会を見つめて41年: 有村の眼)  
K304-AR
4. 希望の持てる21世紀へ: 1985-1996年/有村善一著; 柳瀬吉雄編 [宜野湾]: 有村善一著作集刊行委員会, 宜野湾: 榕樹書林(発売), 1997.9 (社会を見つめて41年: 有村の眼)  
K304-AR
5. 第三の世替わりの中で: 1968-1979年/

- 有村善一著；柳瀬吉雄編 [宜野湾]：有村善一著作集刊行委員会，宜野湾：榕樹書林(発売)，1997.9 (社会を見つめて41年：有村の眼) K304-AR
6. 那覇市議会史，第4巻資料編3：新聞にみる議会(戦前期)／那覇市議会事務局議会史編さん室編 那覇：那覇市議会，1997.3 K318.4-NA
7. 安保・沖縄問題と集団的自衛権／上田耕一郎著 東京：新日本出版社，1997.5 K319-UE
8. 沖縄から見た平和憲法：万人(うまんちゅ)が主役／高良鉄美著 東京：未来社，1997.8 K323-TA
9. 沖縄県産業連関表：県経済の構造と機能，平成2年／沖縄県企画開発部[編] 那覇：沖縄県企画開発部統計課，1995.9 K331.19-OK
10. 沖縄県労働史，第5巻／沖縄県商工労働部編 那覇：沖縄県，1997.3 K366.6-OK
11. サシバ舞う頃に／上里一之著 西原町(沖縄県)：上里一之，1997.5 K369.27-UE
12. 国子監と琉球人留学生：中国最高学府に学んだ琉球の若人：首里城公園企画展／海洋博覧会記念公園管理財団編 [本部町(沖縄県)]：海洋博覧会記念公園管理財団，1997.3 K372.104-KA
13. ワクワクキャンプinおきなわ：キャンプ地徹底ガイド／浦崎猛著 中城村(沖縄県)：むぎ社，1997.7 K374.8-UR
14. 波濤を越えて：[竹富町立鳩間小学校]創立百周年記念誌／鳩間小学校創立百周年記念誌編集委員会編 竹富町(沖縄県)：竹富町立鳩間小学校，1997.6 K376.28-CH
15. 遥なり激動の少年期：戦後五十周年記念誌：楚邊国民学校1940-1945／楚邊国民学校同期生会[編] [出版地不明]：[楚邊国民学校同期生会]，[1996.11] K376.28-SO
16. 感染症：最近の動向／琉球大学編 西原町(沖縄県)：琉球大学，1997.8 (沖縄地区大学放送公開講座，平成9年度) K379.5-OK
17. 南島文化への誘い／沖縄国際大学公開講座委員会編 宜野湾：沖縄国際大学公開講座委員会，1997.8 (沖縄地区大学放送公開講座，平成9年度) K379.5-OK
18. サシバ日和：美島(かぎすま)伊良部／謝花勝一著 那覇：ひるぎ社，1997.5 (おきなわ文庫，79) K384-JA
19. 八重山辞典／崎原恒新編著 [沖縄(沖縄県)]：[崎原恒新]，1997.9 K388.8-SA
20. ラジオ放送／向後英紀解説・訳 東京：日本図書センター，1997.7 (GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，18) K391.4-GHQ
21. 日本人財産の管理／岡部史信解説・訳 東京：日本図書センター，1997.7 (GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，27) K391.4-GHQ
22. 労働組合運動の発展／竹前栄治解説；岡部史信，竹前栄治訳 東京：日本図書センター，1997.7 (GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，31) K391.4-GHQ
23. 農地改革／合田公計解説・訳 東京：日本図書センター，1997.7 (GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，33) K391.4-GHQ
24. 地方自治体財政／永廣顕解説・訳 東京：日本図書センター，1997.7 (GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，38) K391.4-GHQ
25. 金融／武藤正明解説・訳 東京：日本図書センター，1997.7 (GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，39) K391.4-GHQ
26. 外国貿易／西川博史解説；石堂哲也，西川博史訳 東京：日本図書センター，1997.7 (GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，52) K391.4-GHQ
27. 陸上・航空運輸／福住美佐解説・訳 東京：日本図書センター，1997.7 (GHQ日本占領史／竹前栄治，中村隆英監修；天川晃[ほか]編集委員，53) K391.4-GHQ
28. 127万人の実験／沖縄タイムス社編 那覇：沖縄タイムス社，1997.7 K395.39-OK
29. 大地と命と平和：沖縄反戦地主物語／佐次田勉著 東京：新日本出版社，1997.5 K395.39-SA
30. 基地の島から平和のバラを：反戦地主・島袋善祐が歩いた道／島袋善祐述；宮里

千里録・補記 東京：高文研，1997.5  
K395.39-SH

林，1997.8（沖縄学資料シリーズ，2）  
K789.23-NA

4類 自然科学

1. 南大東島自然ガイドブック：オオコウモリと水辺の鳥を歩く／大沢夕志，大沢啓子著 那覇：ポーターインク，1997.7  
K402.9-OS
2. 琉球人種論／伊波普猷著；復刻版 宜野湾：榕樹書林，1997.8（沖縄学資料シリーズ，1）  
K469-IH
3. 大宜味村（沖縄島）の鳥類相とその生息状況について／嵩原建二，安座間安史〔著〕  
〔出版地不明〕：〔出版者不明〕，〔1996.4〕  
K488.211-TA

6類 産 業

1. 地域づくりガイドブック，助成制度編／沖縄広報センター編 那覇：沖縄県企画開発部地域・離島振興局地域振興課，1997.3  
K601-OK

7類 芸 術

1. 沖縄の染織，1：染織品編／沖縄県教育庁文化課編 那覇：沖縄県教育委員会，1997.3（沖縄県文化財調査報告書，第126集．沖縄県史料調査シリーズ，第1集）  
K709.2-OK
2. 沖縄の染織，2：紅型型紙編／沖縄県教育庁文化課編 那覇：沖縄県教育委員会，1997.3（沖縄県文化財調査報告書，第126集．沖縄県史料調査シリーズ，第1集）  
K709.2-OK
3. ケンちゃん日記：貧しいけど豊かだったあのころ／新里堅進作・画 東京：クリエイティブ21，1997.6  
K726.1-SH
4. 一つ星／りんけんバンド [東京]：Sony Music Entertainment，1996  
K764.7-HI
5. 田里朝直の遠望：琉球近世の組踊作家、その魂の叫び／西銘郁和著 [出版地不明]：鳥袋米子，1997.6  
K769-NI
6. 琉球古武道大鑑／平信賢著；新編増補版 宜野湾：榕樹書林，1997.8  
K789-TA
7. 本部朝基と山田辰雄研究／小沼保編著 東京：杜神社，1996.12  
K789.2-KO
8. 空手の話：理想的體育・護身・練膽法／仲宗根源和著；復刻版 宜野湾：榕樹書

8類 語 学

1. 心に残る私のしまぐち 那覇：ラジオ沖縄，那覇：琉球新報社（発売），1997.6  
K800-RA
2. 「琉球館訳語」の音訳字，そのに／多和田眞一郎著 東広島：広島大学留学生センター，1997.3  
K800-TA
3. 沖縄県のことば／平山輝男〔ほか〕編；野原三義〔ほか〕執筆 東京：明治書院，1997.7（日本のことばシリーズ，47）  
K880-HI

9類 文 学

1. 沖縄の四季：私家版俳諧歳時記／喜舎場順著 那覇：東洋企画，1997.8  
K911.168-KI
2. 岸本マチ子／岸本マチ子著 東京：花神社，1997.6（花神現代俳句）  
K911.368-KI
3. 童話・はなたれ三郎／福地原竹士著；名嘉睦稔挿絵 那覇：沖縄タイムス社，1997.7  
K913.8-FU
4. 沖縄式風力発言：ふえーぬしまじま講演集／池沢夏樹著 那覇：ポーターインク，1997.8  
K914.6-IK
5. 自分を輝かせてみませんか：公開ユンタク講座／ゆたかはじめ著 那覇：ポーターインク，1997.7  
K914.6-YU
6. やさしいオキナワ／垂見健吾写真；池沢夏樹文 東京：Parco出版，1997.6  
K915.6-TA
7. 獺のいる風景：山之口獺賞20周年記念誌／山之口獺記念会編集委員会編 那覇：山之口獺記念会，那覇：琉球新報社，1997.7  
K917-YA
8. 光源を求めて：戦後50年と私／大城立裕著 那覇：沖縄タイムス社，1997.7  
K940-OS
9. 沖縄文学全集，第4巻／沖縄文学全集編集委員会編 東京：国書刊行会，1997.9  
K980-OK

注）各資料末尾の記号は請求記号です。

## 図書館事情

### [会議]

#### ◎第216回 図書館運営委員会

日時：平成9年9月25日（木）

10時30分～11時30分

場所：附属図書館会議室

### [協議事項]

1) 調査研究室の設置について

### [報告事項]

1) 附属図書館自己評価委員会報告について

2) 第1回琉球大学附属図書館資料選定委員会報告について

3) 琉球大学附属図書館ホームページによる広報実施要項について

4) その他

① 科学研究費補助金の交付決定通知について

② 学術情報センターとの地域講習会の結果報告について

③ 医学部紀要のホームページ掲載について

④ 大学図書館機能の強化・高度化に関する要望書について

#### ◎第217回 図書館運営委員会

日時：平成9年12月18日（木）

10時30分～

場所：附属図書館会議室

### [協議事項]

1) 図書館研究開発室（仮称）規則（案）について

2) 平成11年度概算要求事項（案）について

3) その他

### [報告事項]

1) 九州地区大学図書館事務（部・課）長会議報告

2) 図書館電子化推進連絡会議報告

3) 自己評価委員会報告

4) 電子図書館機能検討委員会報告

5) 宮良殿内文庫貴重資料展示会報告

6) 遡及入力の実施報告

7) ボランティアへの感謝状の贈呈について

8) その他

#### ◎平成9年度第1回琉球大学附属図書館自己評価委員会

日時：平成9年9月25日（木）

9時30分～10時30分

場所：附属図書館会議室

### [協議事項]

1) 附属図書館自己点検・評価報告書作成スケジュールについて

2) 構成について

3) 図書館に対するアンケート調査について

4) その他

① 学生用図書のインフォメーションに関すること

② 不明図書について

#### ◎平成9年度第2回琉球大学附属図書館自己評価委員会

日時：平成9年11月19日（水）

10時30分～11時40分

場所：附属図書館会議室

### [協議事項]

1) 附属図書館自己点検・評価報告書の間報告書（案）について

2) アンケートの状況等について

### [講演会]

#### ◎平成9年度第2回沖縄県大学図書館協議会講演会

日時：平成9年12月4日（木）

15:00～17:00

講師：小西和信（学術情報センター事業部データベース課長）

演題：「ドキュメント・デリバリー・システムとしての電子図書館」

場所：琉球大学附属図書館多目的ホール

出席者：沖縄県大学図書館協議会加盟館  
7館 45名

## アカデミー賞受賞作品映写会

○○○○ あの思い出の映画をもう一度 ○○○○

場 所： 琉球大学附属図書館 一階 多目的ホール

上映時間：通常期（水）① 15：00～ ② 17：30～

休業期（水） 13：30～

1月7日(水)	『慕情』 102分	① 15：00～	② 17：30～
1月14日(水)	『わが谷は緑なりき』 118分	① 15：00～	② 17：30～
1月21日(水)	『第十七捕虜収容所』 119分	① 15：00～	② 17：30～
1月28日(水)	『カサブランカ』 103分	① 15：00～	② 17：30～
2月4日(水)	『黄色いリボン』 103分	① 15：00～	② 17：30～
2月18日(水)	『西部戦線異常なし』 103分	① 15：00～	② 17：30～
2月25日(水)	『ゴッドファーザー』 175分	13：30～	
3月4日(水)	『ゴッドファーザー Part II』 200分	13：30～	
3月11日(水)	『大いなる西部』 167分	13：30～	
3月18日(水)	『真夜中のカウボーイ』 164分	13：30～	
3月25日(水)	『誰がために鐘はなる』 130分	13：30～	

(資料サービス係)

## 医 学 部 分 館 だ よ り

## [会議]

## ◎第37回医学分館運営委員会

日時：平成9年12月11日（木）

16：00～17：00

場所：医学部分館会議室

## [報告事項]

- |  |   |
|--|---|
| 1. 附属図書館自己点検報告書の作成とアンケート結果について                     | 5. 医学部分館の24時間開館の概算要求について                          |
| 2. 本学在籍の留学生及び他機関（県内病院図書室及び看護学校等を含む）へのアンケート調査依頼について | 6. 研究開発室の設置について                                   |
| 3. 第45回九州地区医学図書館協議会総会について                          | 7. 中央館ボランティアの実施状況及び表彰について                         |
| 4. 平成10年度附属図書館並びに医学部分                              | 8. 情報リタラシー教育について                                  |
|  | 9. ホームページの利活用について（ライブラリー・ワークショップ・プログラム、医学部紀要の登載等） |
|  | 10. 平成10年データベース計画について                             |
|  | 11. その他<br>平成11年度コアジャーナルの購入について                   |

琉球大学附属図書館報“びぶりお”第31巻 第1号（通巻第117号）

平成10年1月発行

発行 琉球大学附属図書館 〒903-0129 沖縄県中頭郡西原町千原1番地

電話 098(895)8168 Fax.098(895)2651 編集 びぶりお編集委員会